

本文章已註冊DOI數位物件識別碼

- ▶ 日本語自動詞文、他動詞文における動詞と名詞項との関わりの問題

doi:10.29714/TKJJ.199803.0013

淡江日本論叢, (7), 1998

作者/Author：鍾慈馨

頁數/Page：274-292

出版日期/Publication Date：1998/03

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

<http://dx.doi.org/10.29714/TKJJ.199803.0013>



DOI Enhanced

DOI是數位物件識別碼（Digital Object Identifier, DOI）的簡稱，是這篇文章在網路上的唯一識別碼，用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 <http://doi.airiti.com>

For more information,

Please see: <http://doi.airiti.com>

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE



日本語自動詞文、他動詞文における 動詞と名詞項との関わりの問題

淡江大学講師

鍾慈馨

本文では、自動詞文、他動詞文の主要な構成要素である述語動詞といわゆる主語の位置に立つ語、及び目的語といわれてきている語の三要素の関わりをみていく。論を進めるにあたって、述語動詞を除く、二つの要素を便宜上名詞項と呼ぶこととする。

日本語の自動詞文、他動詞文における、動詞と名詞項の組み合わせには、動詞の性質や名詞項の性質の違いによって、中国語話者にはなじまないものがある。

動詞と名詞項との関わりを分析していくにあたって、まず、自動詞、他動詞に必要な名詞項を下のように表してみる。

名詞と動詞の組み合わせ

主語	自動詞文		他動詞文			
	有生物	無生物	有生物		無生物	
目的語	A	B	有生物	無生物	有生物	無生物
	A	B	C	D	E	F

上表から各々の名詞項との組み合わせは次のようにリストアップできる。

自動詞文 : A 有生物主語＋自動詞

B 無生物主語＋自動詞

他動詞文 : C 有生物主語＋有生物目的語＋他動詞

D 有生物主語＋無生物目的語＋他動詞

E 無生物主語＋有生物目的語＋他動詞

F 無生物主語＋無生物目的語＋他動詞

さらに、それぞれの自動詞、他動詞は、単に主語の動作、行為或いは作用、変化であるとか、その動作、行為などが、他に影響を及ぼすということだけではなく、その主語の性質の違いによって、主語がどのように変化するか、主語の変化によって、目的語がどのように影響を受けるかは、極めて重要な問題である。この点については、従来あまり詳細に分析がなされてきていないが、ここでは、その分析を進めていくために、先ず、次のように自

動詞文、他動詞文を類分けし、それぞれ個別に検討を進めていく。

(1) 自動詞文

A 有生物主語＋自動詞（以下有生物主語を有生主語と称す）

B 無生物主語＋自動詞（以下無生物主語を無生主語と称す）

自動詞文は、それに用いられる述語動詞の表す動作、行為或いは作用、変化によって、主語そのものが変化を受けるが、その変化を、次のように分類した。

A	有生主語の 変化	動詞例	B	無生主語の 変化	動詞例
(a)	状態変化	黙る、 騒ぐ、 泣く、 迷う、 怒る	(b)	状態変化	壊れる、 破れる、 開く、 乾く
(c)	空間変化 自力	倒れる、 落ちる、 飛ぶ、 集まる、 起きる、 入る、 出る	(d)	空間変化	自力 倒れる、 落ちる、 飛ぶ
				空間変化	他力 集まる、 起きる、 入る、 出る

また、これらの組み合わせによる表現には、以下のようなものが挙げられる。

(a) 有生主語の状態変化を表す自動詞文

○いつもおしゃべりのあの人が今日は黙っていてなにも言わない。(1)

○運動場で子供達が騒いでいる。

○いつまでも泣いていないでお黙りなさい。

○どの辞書を買おうか迷いました。

○田中さんがあまりひどいことを言ったので、私は怒ってしまった。

(a) 類の自動詞文は、主語である動作主そのものにおける状態の変化を表す。

(b) 無生主語の状態変化を表す自動詞文

○あの時計が壊れた。

(1) 例文の頭につけている○印は中国語話者には違和感の感じられない日本語文。

(以下同)

○紙が破れた。

○窓が開いた。

○タオルが乾いた。

(b) 類の自動詞文は、主語そのものの本体における性質、状態の変化を表す。

(c) 有生主語の空間変化を表す自動詞文

○山田さんは急に気持ちが悪くなって倒れた。

○気をつけないと、崖の上から落ちるよ。

○皆は明日午前八時に、東京駅南口に集まる。

○冬は朝早く起きるのはつらい。

○どうぞ、おはいきりください。

○庭に出て、朝の散歩をする。

(c) の有生生物が主語になる文は、有生生物そのものにおける、いわば自力による空間変化である。

(d) 無生主語の空間変化を表す自動詞文

(自力の場合)

○電柱が倒れた。

○石が落ちた。

○風が強いので、窓を開けると紙が飛ぶ。

(他力の場合)

△切手がたくさん集まった。(2)

△昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか起きている。

△このスーツケースには洋服が入っている。

△今日のパーティではごちそうがたくさん出た。

(d) の無生物が主語になる文は、無生物そのものが、外からの力なしに、自らその動作、行為を行うということは、論理的には成り立たない。しかし、○の文において、問題とされるのは動作、行為をさせたものが存在するか、しないかではなく、動作を行うのは、無生物そのものであって、自らによる空間的な変化である。そして、上の○の文と比較すれば明らかであるように、△の文の動作行為が行われるプロセスは、外からの力に頼らな

(2) 例文の頭に付けている△印は中国語話者にはなじまない日本語文。(以下同)

ればならない。この表現における目的語はこのような性質を持っており、従って、この空間的变化は、他力による空間の変化である。(3)

(2) 他動詞文

① 有生物が主語である他動詞文

C 有生主語＋有生物目的語＋他動詞（以下有生物目的語を有生目的語と称す）

D 有生主語＋無生物目的語＋他動詞（以下無生物目的語を無生目的語と称す）

主語である動作主は、動作、行為或いは作用、変化の主体であるが、その主語自身における状態変化が目的語へ及ぶ影響は、次のように分類できよう。

C	有生主語の変化	有生目的語への影響		動詞例	D	有生主語の変化	無生目的語への影響	動詞例
(a)	状態変化	無変化		見る、 探す、 誉める	(b)	状態変化	無変化	見る、 探す、 好む
(c)		状態変化	他力	殺す、 守る、 負かす	(d)		状態変化 他力	折る、 破る、 壊す、 曲げる、 切る
			自力	寝かす、 泣かす、 喜ばす				
(e)	空間変化	他力	返す、 入れる、 上げる	(f)	空間変化 他力	返す、 入れる、 置く、 飛ばす、 上げる		
		自力	返す、 入れる、 飛ばす、 上げる					

また、それらの組み合わせによる表現には、以下のようなものが挙げられる。

(3) 中国語の口語には、無生主語が他力による空間変化を表す自動詞文と思われるような表現、例えば【肚子好餓去看看便当来了没？】（お腹がすいたな、お弁当が来ているかどうか、見てくれ。）、【老板、貨到了請签收。】（社長、荷物が届きました。お受け取りください。）などがあるが、これらの表現は、それぞれ【便当送来了】（お弁当を送ってきた。）、【貨送到了】（荷物を届けてきた。）のような他動表現の省略形であって、無生物が他力で空間変化を表す自動表現ではない。

(a) 有生目的語の無変化を表す他動詞文

- 人をじろじろ見るのは失礼です。
- 皆で捜せば、子供はすぐ見つかるだろう。
- 先生があの学生を誉めた。

(b) 無生目的語の無変化を表す他動詞文

- この景色を見ると故郷が思い出される。
- 彼はアパートを捜している。
- 彼はワインは好むが、ウイスキーは好まない。

(a) (b) 類の他動詞文は、主語の意志や状態の変化によって、目的語であるものは完全に、動作、行為を受ける立場に立つのだが、目的語であるものには影響が及ばない。

(c) 有生目的語の状態変化を表す他動詞文

(他力の場合)

- 誤って、人を殺した。
- 悪い人に狙われています。どうか私を守ってください。
- 一度ひどく負かせば、もうやろうとは言えない。

(自力の場合)

- △子守歌を唄って、赤ん坊を寝かした。
- △昔はよくいじめて、泣かしたもんだ。
- △サンタクロースがやってきて、子供達をたいへん喜ばした。

(c) 類の他動詞文は、主語の状態の変化によって、目的語である有生物が、完全に、動作、行為を受ける立場に立つ。そして、その動作、行為によって、目的語に状態変化の影響を及ぼしている。しかし、○文の目的語における状態変化のプロセスは、すべて他力による変化である。一方、△文の目的語における状態変化は、他力（動作主から）を受けてはいるものの、「寝る」、「泣く」、「喜ぶ」という状態に変化したのは、目的語であるもの自らの動作、行為によるものである。

(d) 無生目的語の状態変化を表す他動詞文

- 手紙を三つに折って封筒に入れました。
- 子供がいたずらをして、障子を破った。
- 茶わんをゆかに落としてこわした。
- 針金を曲げる。

○一枚の紙をはさみで二枚に切った。

(d) 類の他動詞文は、主語の状態の変化によって、目的語である無生物が完全に動作、行為を受ける立場に立つ。しかも目的語である無生物にも状態変化の影響が及ぶ。

(e) 有生目的語の空間変化を表す他動詞文

(他力の場合)

○彼は小犬を飼い主のもとへ返した。

○彼は鳥をかごのなかに入れた。

○小犬を二階のベランダに上げなさい。

○養子を実の母親のもとに返した。

○犯人を牢屋に入れた。

○重病の病人をベッドに上げた。

(自力の場合)

△彼は妹を国へかえした。

△彼は息子を大学に入れた。

△天気の良い日は、いつも鳩を飛ばす。

△事件が起きると、デスクは記者を飛ばした。

△彼はお客を座敷に上げた。

(e) の文は、有生物である主語の状態変化によって、有生物である目的語に空間の変化をもたらす表現である。しかし、○文の目的語における空間変化のプロセスは、すべて他力による変化である。つまり、目的語であるものには、動作、行為をする能力や条件が備わらないもので、他力による空間変化である。△文の目的語における空間変化は、他力（動作主から）を受けてはいるものの、空間的に変化をするのは、自らの動作、行為によってである。

(f) 無生目的語の空間変化を表す他動詞文

○彼は本を図書館に返した。

○彼は靴を下駄箱に入れた。

○本を机のうえに置いてください。

○少年が模型飛行機を飛ばした。

○この荷物を棚に上げてください。

(f) の文は、有生物である主語の状態の変化によって、無生物である目的語に空間の変化

をもたらす。

②無生物が主語である他動詞文

E 無生主語＋有生目的語＋他動詞

F 無生主語＋無生目的語＋他動詞

E 有生物目的語の他動詞文

○この歌が私を慰めてくれる。

○お酒が彼を滅ぼした。

○昔の恋人の持ち物が田中さんをよく泣かす。

○この薬があの人を生かした。

○あの歌手のリサイタルはおおぜいの観客を集めた。

○この堤防がわれわれを水害から守ってくれる。

○このカメラは彼女をよく映している。

F 無生物目的語の他動詞文

○太陽が雪を溶かす。

○地熱が卵をゆでる。

○泥が靴を汚した。

論理的に考えれば、無生物そのものが、自ら動作を行ったり、作用をするということはありませんが、しかし、E、Fの無生物の主語には、そのもの自体は無生物であっても、目的語である有生物に、生理的、心理的状态に、或いは目的語の無生物の状態に、十分影響が与えられるような状態（つまり、行為、作用などを行うような動作主として考えても無理のないような性質）が備わっておれば文として成り立つ表現である。

中国語話者にみられる使用傾向

述語動詞と名詞項との関わりによって、分類してきた以上の表現には、中国語話者にとってそのうちのいくつかの表現はその使い分けの上で、中国語表現における認識あるいは発想の転換を強いられることとなるものがある。

以上の分析の結果から、それをまとめると次のように言えよう。

(1) P 276 の△文で明らかであるように、中国語話者には、無生主語の自動詞文において、主語が他力によって空間変化する表現はなじまず、「集まる」、「起きる」、「入る」、「出る」は有生主語そのものの動作、行為と認識する。

- (2) P 278 及び P 279 の△文で明らかであるように、有生物である主語が有生物である目的語に作用を及ぼし、その結果、目的語である有生物が自力によって状態の変化をしたり空間的な変化をしたりする表現は中国語話者にはなじまず、目的語が動作、行為などを受ける使役表現或いは、目的語が動作、行為などを自ら行う自動表現と認識する。以下、これについて、具体的にみていく。

(1) 無生物である主語の他力によって空間変化をする自動詞文

日本語におけるこの類の表現は、中国語においては、それぞれ、次のように状態表現、他動表現、受け身表現とする傾向が見られる。

① 状態表現

中国語の表現形式

【無生主語＋状態変化を表す自動詞】

【状態変化を表す自動詞＋無生主語】

② 他動表現

中国語の表現形式

【有生主語＋処置助詞＋無生目的語＋空間変化を表す他動詞】

【(有生主語)＋空間変化を表す他動詞＋無生目的語】

③ 受け身表現

中国語の表現形式

【無生主語＋受け身助詞＋(有生動作主)＋空間変化を表す他動詞】

【受け身助詞＋(有生動作主)＋空間変化を表す他動詞＋無生目的語】

中国語の表現形式における下線部分は、ここで問題としている日本語表現における無生主語にあたるものである。

中国語の無生主語が自力によって、空間変化を表す自動詞文は、日本語の場合と同じ認識に立った表現形式をとる⁽⁴⁾ (P 276 に挙例)が、無生主語が他力で空間変化を表す自動詞文はこのように日本語の場合とは認識を異にした表現形式をとる。

中国語における表現形式の具体例は、次のようである。

① 状態表現

(4) 無生主語が自力によって、空間変化を表す自動詞文は、日本語と中国語は同じ認識に立った表現形式を取り、「無生主語＋空間変化を表す自動詞」で表される。

△切手がたくさん集まった。

→○切手がたくさんある。

【有很多郵票。】

△昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか起きている。

→○昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか（あそこに）立っている。

【昨天被風吹倒的電線桿什麼時候已矗立在那兒了。】

△このスーツケースには洋服がたくさん入っている。

→○このスーツケースの中には洋服がたくさんある。

【這個皮箱裏有很多衣服。】

△今日のパーティではごちそうがたくさん出た。

→○今日のパーティではごちそうがたくさんあった。

【今天的餐会上有很多好吃的菜。】

②他動表現

△切手がたくさん集まった。

→○私は切手をたくさん集めた。

【我收集了很多郵票。】

△昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか起きている。

→○だれかが、昨日の風で倒れた電柱を立てた。

【有人把昨天被風吹倒的電線桿立起來了。】

△このスーツケースには洋服がたくさん入っている。

→○このスーツケースの中には洋服が入れてある。

【這個皮箱裏裝了很多衣服。】

△今日のパーティではごちそうがたくさん出た。

→○今日のパーティでは（ご主人が）ごちそうをたくさん出した。

【今天的餐会上、主人提供了很多好吃的菜。】

③受け身表現

中国語では無生物の主語が強調される場合、受け身表現を使うことが多い。

△香港では珍しい切手がたくさん集まった。

→○香港では珍しい切手がたくさん集められた。

【特殊的郵票、在香港被收集了很多。】

△昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか起きている。

→○昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか立てられている。

【昨天被風吹倒的電線桿什麼時候被立起來了。】

△この小さいスーツケースには洋服がぎっしり入っている。

→○このスーツケースの中には洋服がぎっしり入れられている。

【這個小皮箱裏被塞了很多衣服。】

△今日のパーティでは私の大好物の北京ダックが出た。

→○今日のパーティでは私の大好物の北京ダックが出された。

【今天的餐会上、我最愛吃的北京鴨被端出來了。】

無生物が他力で空間変化を表す表現において、中国語話者の上の三つの使用傾向（状態表現、他動表現、受け身表現）から、次のようなことが分かる。

- 1 ①の状態表現では、日本語表現でかなり重要な要素である無生物の空間的移動性が完全に無視されていて、空間的移動の結果により、ものが存在するという状態性が強められている。
- 2 ②と③の他動表現と受け身表現では、逆に、無生物の空間的変化が動作主の動作、行為によって、成立することが強められ、日本語の自動表現にみえる状態性が弱められている。
- 3 中国語において、無生物が他力で空間変化を表す事態は、動作主なしに表現することができない。

(2) 有生物である目的語が自力によって状態変化、空間変化をする他動詞文

中国語話者には、日本語におけるこの類の表現は、それぞれ、次のように自動表現、使役表現とする傾向が見られる。

①自動表現

中国語の表現形式

【有生主語＋自動詞】

②使役表現

中国語の表現形式

【有生主語＋使役他動詞⁽⁵⁾＋有生目的語＋変化を表す自動詞】

⁽⁵⁾ 使役他動詞：中国語のこの類の動詞、例えば、【哄】【惹】【命令】【放】などは日本

【有生主語＋使役助詞＋有生目的語＋変化を表す自動詞】

中国語の表現形式における下線部分は、ここで問題としている日本語表現における有生目的語にあたるもの。

中国語の有生目的語が他力によって、状態、空間変化を表す他動詞文は、日本語の場合と同じ認識に立った表現形式をとる⁽⁶⁾が、目的語が自力で、状態、空間変化を表す他動詞文はこのように日本語の場合とは認識を異にした表現形式をとる。

中国語における表現形式の具体例は次のようである。

①自動表現

△子守歌を唄って、赤ん坊を寝かした。

→○子守歌を唄って、赤ん坊は寝た。

【唱着搖籃曲、孩子睡着了。】

△昔はよくいじめて、泣かしたもんだ。

→○昔はよくいじめて、(あの子が) 泣いた。

【以前、常常欺負他、他就哭。】

△サンタクロースがやってきて、子供達をたいへん喜ばした。

→○サンタクロースがやってきて、子供達がたいへん喜んだ。

【聖誕老人來了、孩子們好高興。】

△彼は妹を国へかえした。

→○(彼の命令、…で、)妹は国へかえった。

【因他的命令他妹妹回國了。】

△彼は息子を大学に入れた。

→○息子は大学に入った。

語の状態、空間変化を表す他動詞の性質とは異なり、主語そのものにおける状態変化であって、目的語に及ぼす状態、空間変化は表せない。

- ⁽⁶⁾ 有生目的語が他力によって、状態、空間変化を表す他動詞文は、日本語と中国語は同じ認識に立った表現形式を取り、日本語では、「有生主語＋有生目的語＋状態、空間変化を表す他動詞」、中国語では、【有生主語＋状態、空間変化を表す他動詞＋有生目的語】又は、【有生主語＋処置助詞＋有生目的語＋状態、空間変化を表す他動詞】で表される。

【児子上大学了。】

△事件が起きると、デスクはあの記者を現場は飛ばした。

→○事件が起きると、(デスクの命令で)、あの記者は現場へ飛んだ。

【發生了案件、由於長官的命令、那位記者急往肇事現場去了。】

△彼はお客を座敷に上げた。

→○(彼の案内で)、お客は座敷に上がった。

【由他的帶領、客人到了接待室。】

②使役表現

△子守歌を唄って、赤ん坊を寝かした。

→○子守歌を唄って、赤ん坊を寝させた。

【唱着搖籃曲、哄孩子睡了。】

【唱着搖籃曲、讓孩子睡了。】

△昔はよくいじめて、あの子を泣かしたもんだ。

→○昔はよくいじめて、あの子を泣かせた。

【以前常常欺負他惹他哭。】

△サンタクロースがやってきて、子供達をたいへん喜ばした。

→○サンタクロースがやってきて、子供達をたいへん喜ばせた。

【聖誕老人來了、他讓孩子們好高興。】

△彼は妹を国へかえした。

→○彼は妹を国へかえらせた。

【他命令他妹妹回國。】

【他叫他妹妹回國。】

△彼は息子を大学に入れた。

→○彼は息子を大学に入らせた。

【他讓他兒子上大學。】

△天気の良い日は、いつも、鳩を飛ばす。

→○天気の良い日は、いつも、鳩を飛ばせる。

【天氣好的日子、常常放鴿子飛。】

【天氣好的日子、常常讓鴿子飛。】

△事件が起きると、デスクは記者を現場へ飛ばした。

→○事件が起きると、デスクは記者を現場へ走らせた。

【發生了案件、報社長官派記者往肇事現場去。】

【發生了案件、報社長官讓記者往肇事現場去。】

△彼はお客を座敷に上げた。

→○彼はお客を座敷に上がらせた。

【他帶客人到接待室去了。】

【他讓客人到接待室去了。】

中国語話者の、有生目的語が自力で状態変化、空間変化をする他動詞表現における、上記二つの使用傾向（自動表現、使役表現）から、次のようなことが分かる。

- 1 ①の中国語話者にみられるこの場合の自動表現は、ここで問題となっている文の有生動作主が、直接に有生目的語に動作、行為の働きかけをする他動性が無視され、単なる二つの因果関係を表す単文のつながりの表現とすること。
- 2 中国語話者にみられるこの場合の②使役表現では、使役を表す要素（～サセル）を自動詞に付け加え、目的語自らの動作、行為の上に、動作主の使役性が加わった表現とすること。
- 3 日本語における有生目的語が自らで状態変化、空間変化を表す他動詞表現は中国語では、有生目的語の自動性が、強調される表現にすること。

なお、中国語話者にとって、あまり違和感を感じない○印の文の表現と、それに相当する中国語の表現を、参考として下に挙げておく。

(1) 自動詞文

(a) 有生物が主語である状態変化を表す自動詞文

【有生主語＋形容詞】

【有生主語＋状態を表す自動詞】

○いつもおしゃべりのあの人が今日は黙っていて何も言わない。

【一直是很愛說話的人、今天安安靜靜的不說一句話。】

○運動場で子供達が騒いでいる。

【運動場上、孩子們在喧鬧。】

○いつまでも泣いていないでお黙りなさい。

【不要老是哭個不停、安靜下來。】

○どの辞書を買おうか迷いました。

【買那本辞典好？猶豫不定。】

○田中さんがあまりひどいことを言ったので、私は怒ってしまった。

【田中先生說了太過分的話、我生氣了。】

(b) 無生物が主語である状態変化を表す自動詞文

【無生主語＋形容詞】

【無生主語＋状態を表す自動詞】

○あの時計が壊れた。

【那個鐘壞了。】

○紙が破れた。

【紙破了。】

○窓が開いた。

【窓子開了。】

○タオルが乾いた。

【毛巾乾了。】

(c) 有生物が主語である空間変化を表す自動詞文

【有生主語＋空間変化を表す自動詞】

○山田さんは急に気持ちが悪くなって倒れた。

【田中先生突然間感到不適、倒了下去。】

○気を付けないと、崖の上から落ちるよ。

【不小心、會從懸崖上掉下去。】

○赤ちゃんが生まれた知らせを聞いて、病院へ飛んでいった。

【一接到孩子出生的消息、就急忙往医院去了。】

○皆は明日午前八時に、東京駅南口に集まる。

【明天上午八点、大家在東京車站南口集合。】

○冬は朝早く起きるのはつらい。

【冬天的早上、早起是很辛苦的事。】

○どうぞ、おはいりください。

【請進。】

○庭に出て、朝の散歩をする。

【一大早到庭院去散步。】

(d) 無生物が主語である空間変化を表す自動詞文

(主語の自力による変化)

【無生主語＋空間変化を表す自動詞】

○電柱が倒れた。

【電線桿倒了。】

○石が落ちた。

【石頭掉下去了。】

○風が強いので、窓を開けると紙が飛ぶ。

【外面風大、一打開窗、紙就飛了起來。】

(主語の他力による変化)

△切手がたくさん集まった。

△昨日の風で倒れた電柱がいつのまにか起きている。

△このスーツケースには洋服が入っている。

△今日のパーティではごちそうがたくさん出た。

(2) 他動詞文

① 有生物が主語である他動詞文

(a) 有生物が目的語である無変化を表す他動詞文

【(有生主語)＋目的語に無変化を表す他動詞＋有生目的語】

○人をじろじろ見るのは失礼です。

【老對着人看、是不禮貌的。】

○皆で捜せば、子供はすぐ見つかるだろう。

【大家一起找的話、孩子大概馬上就能找到。】

○先生があの学生を誉めた。

【老師讚美了那個學生。】

(b) 無生物が目的語の無変化を表す他動詞文

【(有生主語)＋目的語に無変化を表す他動詞＋無生目的語】

○この景色を見ると故郷が思い出される。

【看到這個景色、就想起了故鄉。】

○彼はアパートを探している。

【他在找房子。】

○彼はワインは好むが、ウイスキーは好まない。

【他喜歡葡萄酒、不喜歡威士忌。】

(c) 有生物が目的語の状態変化を表わす他動詞文

(目的語以外の力による変化)

【(有生主語) + 状態変化を表わす他動詞 + 有生目的語】

○誤って、人を殺した。

【誤殺了人。】

○悪い人に狙われています。どうか私を守ってください。

【有壞人企圖要傷害我。請保護我。】

○一度ひどく負かせば、もうやろうとは言いません。

【一次狠狠地打敗他、以後就不敢說還要再来了。】

(目的語の自力による変化)

△子守歌を唄って、赤ん坊を寝かす。

△昔はよくいじめて、泣かしたもんだ。

△サンタクロースがやってきて、子供達をたいへん喜ばした。

(d) 無生物が目的語である状態変化を表わす他動詞文

【(有生主語) + 状態変化を表わす他動詞 + 無生目的語】

【(有生主語) + 処置助詞 + 無生目的語 + 状態変化を表わす他動詞】

○手紙を三つに折って封筒に入れました。

【把信紙折成三折、装進信封裏。】

○子供がいたずらをして、障子を破った。

【小孩子惡作劇、弄破了紙門。】

【小孩子惡作劇、把紙門弄破了。】

○茶わんをゆかに落としてこわした。

【把碗掉到地上、弄破了。】

○針金を曲げる。

【把鉄絲弄彎。】

○一枚の紙をはさみで二枚に切った。

【把一張紙、用剪刀剪成兩半。】

(e) 有生物が目的語である空間変化を表わす他動詞文

(目的語の以外の力(他力)による変化)

【(有生主語) + 処置助詞 + 有生目的語 + 空間変化を表わす他動詞】

○彼は小犬を飼い主のもとへ返した。

【他把小狗還給它主人了。】

○彼は鳥をかごのなかに入れた。

【他把鳥放進籠裏去了。】

○小犬を二階のベランダに上げなさい。

【把小狗抱到二樓的陽台上去。】

○養子を実の母親のもとに返した。

【把養子還給了親生的母親。】

○犯人を牢屋に入れた。

【把犯人關到牢房裏去了。】

○重病の病人をベッドにあげた。

【把重病病人抬到床上。】

(目的語自力による変化)

△彼は妹を国へかえした。

△彼は息子を大学に入れた。

△天気のよい日は、いつも鳩を飛ばす。

△事件が起きると、デスクは記者を飛ばした。

△彼はお客を座敷に上げた。

(f) 無生物の目的語である空間変化を表わす他動詞文

【(有生主語) + 処置助詞 + 無生目的語 + 空間変化を表わす他動詞】

○彼は本を図書館に返した。

【他把書還回圖書館了。】

○彼は靴を下駄箱に入れた。

【他把鞋子放進鞋櫃裏。】

○本を机のうえに置いてください。

【請把書放在桌子上。】

○少年が模型飛行機を飛ばした。

【少年把模型飛機飛起來了。】

○この荷物を棚に上げてください。

【請把這個行李放到架子上去。】

②無生物が主語である他動詞文

(a) 有生物が目的語である他動詞文

【無生主語＋他動詞＋有生目的語】

【無生主語＋処置助詞＋有生目的語＋他動詞】

○この歌が私を慰めてくれる。

【這首歌很能安慰人。】

○お酒が彼を滅ぼした。

【是酒毀了他。】

○昔の恋人の持ち物が田中さんをよく泣かす。

【以前的恋人所留下来的東西常常引起田中先生掉淚。】

○この薬があの病人を生かした。

【是這個藥治好了那個病人。】

○あの歌手のリサイタルがおおぜいの観客を集めた。

【那位歌手的演唱會吸引了許多的觀眾。】

○この堤防がわれわれを水害から守ってくれる。

【這座堤防保護我們免於水害。】

○このカメラは彼女をよく映している。

【這架相機把他照得很好。】

(b) 無生物が目的語である他動詞文

【無生主語＋他動詞＋無生目的語】

【無生主語＋処置助詞＋無生目的語＋他動詞】

○太陽が雪を溶かす。

【太陽把雪融化了。】

【太陽融化了雪。】

○地熱が卵をゆでる。

【地熱把蛋煮熟。】

○泥が靴を汚した。

【泥巴沾汚了鞋子。】

airiti

参考文献：

池上嘉彦 1981. 『「する」と「なる」の言語学』 大修館書店

小川芳男・林大・他（編）1982. 『日本語教育事典』 大修館書店

1975. 『外国人のための基本語用例辞典』 文化庁

金田一京助・他（編）1972. 『新明解国語辞典』 三省堂
